

こどものお口



どう育つの？

～ 口腔機能の発達がわかる本 ～

監修・解説／田村文彦 解説／木本茂成 弘中祥司

絵／鈴木あつよ

学童期編

小学生のころ

医歯薬出版株式会社



ねえ
お姉ちゃんと いっしょに がっ こう
学校にいきます。



は ぬ
歯が抜けて、びっくりしちゃったのかな。

ぼくもこのまえ は ぬ
歯が抜けたけど、

そろそろ おとな は は
大人の歯が生えてくるのかな？





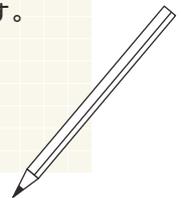
学童期の 歯と歯並びの発達と発育

6歳ごろから最初の永久歯である前歯(中切歯)と奥歯(6歳臼歯:第一大臼歯)が生えはじめます。とくに永久歯の前歯4本が乳歯と生えかわる期間は歯が並んでいる部分の幅(側方)と前后的な長さ(前方)の成長が著しい時期です。乳歯よりかなり幅の大きい永久歯の前歯が生えてくる7~8歳は一時的に歯の並び方に異常を生じたり、上あごの真ん中の前歯のあいだに隙間を生じたりします。多くの場合はとなりの永久歯が生えかわるあいだに位置が修正されますが、歯のねじれや重なりが強い場合には永久歯の歯並びの異常を招きます。また、乳歯の奥歯が生えかわりの時期よりもかなり早い時期に抜けてしまうと、第一大臼歯が前方に移動して、乳歯の奥歯の部分に生えてくる歯のスペースが不足することになります。従って、乳歯が早期に抜けてしまった場合には、そのスペースを保持するための装置(保隙装置^{ほげきそうち})を装着する必要があります。

8歳ごろになると上下の第一大臼歯と前歯4歯が生えそろう、かみあわせの垂直的な高さも著しく成長します。そして、9歳から11歳ごろに小臼歯と犬歯が永久歯に生えかわり、12歳ごろには全ての乳歯が永久歯と生えかわります。さらに12歳ごろから7番目の永久歯である奥歯(第二大臼歯)が生え始めて、14~15歳ごろに生え終わります。

学童期の歯と歯並びチェックポイント

- 6歳ごろから乳歯が抜けはじめ、
12~13歳ごろには全ての歯が永久歯に生えかわります。
- 歯の生えかわりの過程で、一時的に歯並びに異常が生じたり、前歯に不自然な隙間ができたりします。多くの場合は永久歯が生えそろうときに修正されます。
- 歯の抜け替わる順番によっては、他の歯が生えてくるスペースがなくなってしまうことがあります。





学童期の 食べることで 歯科医院に相談できること

学校給食でのつまずき

学校給食が始まり、偏食が強い、咀嚼力^{そしゃく}が弱い、手の使い方が下手、食事する際の姿勢が悪い、といった問題が学校生活に影響してきます。学校に入学すると偏食が改善する例も多くありますが、一方で、より偏食が強固になり栄養不良に陥る場合があります。そのような場合は、医師や管理栄養士につなげる必要があるかもしれません。咀嚼力については、歯の生えかわりや口腔機能の未成熟が関係していることがあり、正しい評価や管理が必要となります。また、手の使いかたや姿勢についても、専門的なトレーニングが必要な場合には、作業療法士などのかかわりも重要となります。

朝ご飯を食べられない、食事のときはいつもひとり

朝ご飯を食べない（朝食欠食）、ひとりきりで食事する（孤食）の問題が増えてきています。2017年度の文部科学省の調査¹⁾では、朝食を食べない子どもが小学6年生で13.1%、中学3年生で17.3%みられました。年齢が上がっていくと朝食を食べない子どもが増えていくようです。身体を作る大切な時期になるため、家庭でできるだけ朝食を食べていける環境づくりをしてあげましょう。他の家族の介護や仕事が忙しい、調理が苦手、健康がすぐれず食事を用意できない……など、さまざまな理由があると思います。家族だけで抱え込まず、相談するようにしてください。きっと解決の糸口が見つかると思います。

1) 食育白書 平成29年度版 36頁

http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/attach/pdf/h29_wpaper-22.pdf